

光学医療診療部

1-1 構成員

平成29年3月31日現在

教授	1人
病院教授	0人
准教授	0人
病院准教授	0人
講師(うち病院籍)	1人 (1人)
病院講師	0人
助教(うち病院籍)	0人 (0人)
診療助教	1人
特任教員(特任教授、特任准教授、特任助教を含む)	0人
医員	0人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生(うち他講座から)	0人 (0人)
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員(教務職員を含む)	0人
その他(技術補佐員等)	3人
合 計	6人

1-2 教員の異動状況

峯田 周幸(部長・教授) (平成26年4月1日～現職)
大澤 恵(副部長・講師) (平成24年1月1日～現職)
魚谷 貴洋(診療助教) (平成29年3月1日～現職)

2 講座等が行っている研究・開発等

1	(1) 研究・開発等のテーマ名	大腸カプセル内視鏡による下部消化管疾患に対する非侵襲的検査法の確立
	(2) 研究・開発等の背景、目的、内容の概略	平成26年1月より大腸カプセル内視鏡検査が保険収載された。当院では全国に先駆けて本検査を導入しており、より簡便で負担の少ない前処置法の確立、外来での円滑な検査実施のためのシステム構築を実践し、検査のさらなる普及に取り組んでいる。具体的には以下の3つのテーマの臨床研究を現在行っている。(1) 大腸カプセル内視鏡の前処置軽減新レジメンの有用性、利便性の検討、(2) 潰瘍性大腸炎患者における大腸カプセル内視鏡による粘膜炎症評価の有用性の検討、(3) 大腸カプセル内視鏡の有用性・安全性・受容性に関する多施設共同前向き研究
	(3) 前年度までの状況	前処置法の比較について、日本カプセル内視鏡学会学術集会にて発表した。また潰瘍性大腸炎患者における有用性、利便性についての症例登録を開始した。
	(4) 当該年度内の進捗	前処置法の比較について、日本消化器内視鏡学会総会にて発表した。また潰瘍性大腸炎患者における有用性、利便性について日本カプセル内視鏡学会学術集会にて報告した。
	(5) 翌年度の方針と予想	上記について国際学会(UEGW)での発表と論文化を目標としている。
2	(1) 研究・開発等のテーマ名	接触視野確保を可能とした新型内視鏡先端キャップの開発
	(2) 研究・開発等の背景、目的、内容の概略	消化管内視鏡は治療内視鏡での役割も増している。治療処置においては対象物に接触すると視野が得られない、いわゆる“赤玉現象”を回避するため、これまで筒型先端キャップが多く開発されて臨床現場で使用されている。しかし、このデバイスは筒内に血液や残渣が混入する場合に容易に視野が障害される。本研究では筒型先端キャップの欠点を改善することを目的に、対象物とCCDカメラの間の空間を透明度の高い石英ガラスやシリコン素材で確保した新たな内視鏡先端デバイスを開発している
3	(1) 研究・開発等のテーマ名	オーガノイドを用いたヘリコバクターピロリ菌の感染機序の解明
	(2) 研究・開発等の背景、目的、内容の概略	近年、細胞培養や実験動物と異なる全クモダリティ、オーガノイドが開発された。本研究はこの新しい媒体を用いて、胃潰瘍や胃癌の原因となるヘリコバクターピロリ菌感染の作用機序を探ることを目的とした。この手法により、癌細胞や実験動物を起源としない正常ヒト組織のex-vivo検体を対象とできることが画期的であり、これにより感染早期の正常ヒト胃粘膜の炎症反応や細胞間接合の実際が明らかになった。

3 論文、症例報告、著書等

	平成28年度
(1) 原著論文数(うち和文のもの)	2編 (0編)
そのインパクトファクターの合計	10.398
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0編
そのインパクトファクターの合計	0.000
(3) 総説数(うち和文のもの)	0編 (0編)
そのインパクトファクターの合計	0.000
(4) 著書数(うち和文のもの)	2編 (2編)
(5) 症例報告数(うち和文のもの)	1編 (0編)
そのインパクトファクターの合計	2.787

(1) 原著論文

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

論文数(A)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.		IF
1.	Oishi S, Takano R, Tamura S, Tani S, Iwaizumi M, Hamaya Y, Takagaki K, Nagata T, Seto S, Horii T, Osawa S, Furuta T, Miyajima H, Sugimoto K. M2 polarization of murine peritoneal macrophages induces regulatory cytokine production and suppresses T-cell proliferation. Immunology, 149(3):320-328, 2016	4.078
2.	Kagami T, Sahara S, Ichikawa H, Uotani T, Yamade M, Sugimoto M, Hamaya Y, Iwaizumi M, Osawa S, Sugimoto K, Miyajima H, Furuta T. Potent acid inhibition by vonoprazan in comparison with esomeprazole, with reference to CYP2C19 genotype. Aliment Pharmacol Ther, 43(10):1048-59, 2016	6.320

論文数(B)小計 2 うち和文 0 IF小計 10.398

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

論文数(C)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

(4) 著書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

著者: タイトル, 出版社名, 巻, 初頁-終頁(頁数), 発行年.		IF
1.	大澤恵.『透析患者の消化管出血に対し、どう対応すれば良いですか?』加藤明彦編, そうだったんだ! 透析患者, 文光堂, 112-116, 2016	
2.	大澤恵.『下痢・便秘』透析患者診療に役立つ診断と重症度判定のためのアプローチ, 臨床透析編集委員会企画, 日本メディカルセンター, 45-47, 2016	

著書数(A)小計 2 うち和文 2

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

著書数(B)小計 0 うち和文 0

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

著書数(C)小計 0 うち和文 0

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

症例報告数(A)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.		IF
1.	Takagaki K, Osawa S*, Ito T, Iwaizumi M, Hamaya Y, Tsukui H, Furuta T, Wada H, Baba S, Sugimoto K. Inverted Meckel's diverticulum preoperatively diagnosed using double-balloon enteroscopy. World J Gastroenterol, 7; 22(17): 4416-20, 2016	2.787

症例報告数(B)小計 1 うち和文 0 IF小計 2.787

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

症例報告数(C)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

4-1 特許等の知的財産権の取得状況

	平成28年度
特許等取得数(出願中含む)	0 件

4-2 薬剤、医療機器等の実用化、認証、承認、製品化、販売等の状況

	平成28年度
実用化、認証、承認、製品化、販売数	0 件

5 医学研究費取得状況

	平成28年度	
	件数	金額 (万円未満四捨五入)
(1) 科学研究費助成事業(文部科学省、日本学術振興会)	0件	0万円
(2) 厚生労働科学研究費	0件	0万円
(3) 日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成	0件	0万円
(4) 科学技術振興機構(JST)による研究助成	0件	0万円
(5) 他政府機関による研究助成	0件	0万円
(6) 財団助成金	0件	0万円
(7) 受託研究または共同研究	0件	0万円
(8) 奨学寄附金	0件	0万円

6 大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	(1) 国際学会	(2) 国内学会
1) 基調講演・招待講演回数	0件	1件
2) シンポジウム発表数	0件	0件
3) 学会座長回数	0件	5件
4) 学会開催回数	0件	0件
5) 学会役員等回数	0件	3件
6) 一般演題発表数	0件	

(2) 国内学会の開催・参加

1) 学会における特別講演・招待講演

- 大澤 恵、潰瘍性大腸炎に対する新たなモダリティ～大腸カプセル内視鏡をいかに扱うか～、第91回日本消化器内視鏡学会総会・ランチョンセミナー、東京、2016年5月13日(金)

3) 座長をした学会名

- 大澤 恵、日本消化器病学会東海支部第124回例会、専門医セミナー、浜松、2016年6月18日(土)
- 大澤 恵、日本内科学会 第230回東海地方会、一般演題、名古屋国際会議場、2016年10月16日(日)
- 大澤 恵、第59回日本消化器内視鏡学会東海支部例会、一般演題、名古屋国際会議場、2016年12月3日(土)
- 大澤 恵、JDDW2016第92回日本消化器内視鏡学会総会、デジタルポスターセッション、神戸、2016年11月5日(土)
- 大澤 恵、第10回日本カプセル7内視鏡学会学術集会、一般演題、名古屋国際会議場、2017年2月19日(日)

5) 役職についている国内学会名とその役割

- 大澤 恵 日本消化器病学会 本部評議員、東海支部評議員
- 大澤 恵 日本消化器内視鏡学会 学会評議員、東海支部評議員
- 大澤 恵 日本カプセル内視鏡学会 評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	(1) 外国	(2) 国内
学術雑誌編集数(レフリー数は除く)	2件	0件

(1) 外国の学術雑誌の編集

- World J Gastroenterology誌(中国)、Editorial Board、論文査読、2005年～、査読回数約8回/年、IFあり
- World Journal of Gastrointestinal Endoscopy誌(中国)、Editorial Board、論文査読、2017年～、査読回数約3回/年、IFなし

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

- 大澤恵 8回 World Journal of Gastroenterology (China)
- 大澤恵 3回 World Journal of Gastrointestinal Endoscopy (China)
- 大澤恵 2回 Medicine (USA)
- 大澤恵 1回 Gastroenterology Research and Practice (UK)

9 共同研究の実施状況

	平成28年度
(1)国際共同研究	0 件
(2)国内共同研究	0 件
(3)学内共同研究	0 件

10 産学共同研究

	平成28年度
産学共同研究	0 件

11 受 賞

12 新聞, 雑誌, インターネット等による報道

13 その他の業績